

## 2. 大渕遺跡出土の土錘について

### はじめに

大渕遺跡で出土した土錘は総数318点を数える。その全てを占める管状土錘は従来より漁網用とされており、河口地帯の低地部に立地する同遺跡の生業及び生活の一端を考える上で重要な位置にあると思われる。また、県内の古代遺跡でこのようにまとまった量が出土することは希少な例であるため、若干の統計的な処理をもとに、土錘の分類・製作・使用状況について考え、今後同様の環境を有する遺跡から出土する土錘の基礎データとしたい。

時 期 出土土錘のうち121点については、時期が明らかとなっている。109の1点のみが堅穴住居S B51より出土しており、弥生時代中期にあたる。また、31点が鎌倉～室町時代の溝・井戸・柵列ピット埋土内より出土しており、形態Cの須恵質のもの3点については、中世に下る可能性が考えられる。他の形態A及び形態Bについては、中世遺構の土器の出土状態が、90%以上古代の遺物で占められるという状況があり、中世の土錘についてどのようなものがあるかははっきりしていないが、形態・胎土からみて混入 第6回 弥生時代の土錘 と考えたほうがよいと思われる。さらに、大渕Ⅲ期に属するものがまったくみられなかつたが、これは遺跡の性格の推移を考える上で重要なことと思われ、後述したい。

大渕I-1期では17点、I-2期48点、I-3期8点出土しているが、この中で一括性が高いものをあげるとすれば、SK41の17点（うち埋土中6点）と若干問題は残るものSE28があるのみで、その他は確実性に乏しく、前述したように後掘された遺構に混入している可能性も考えられる。ただし、その形態からみて弥生期のものが多量に入ってきている確率は少ないものと思われる。そのため、数量的な問題もありI期を細かくみると意味があまり無く、時間的に幅はあるがI期をまとめて扱い、II期と比較してみたい。まず形態をみると、I期の73点のうち形態Aが66点を占め、形態Cが6点、形態Bは1点のみとなっている。II期のもの16点のうち形態Aが10点、形態Bが4点、形態Cが2点あり、I期に比べてひとつの形態に集中しない傾向があり、特に形態Bがその割合を増しているのが目につく。次に重量の問題であるが、I期の形態Aの完形品で50.5g～109.0gの間に33点分布し（1点201.9gのものがある）、うち20点が65g～85gに集中する。一方、II期の形態Aは46.4g～86.6gとI期に比べてやや軽めの分布を示し、ばらつき気味である。また、形態Bは23.2g～62.4gと軽い領域に落ち着く。形態Cについては、両時期ともにあまり差はない。



分類 大測遺跡の土錐318点は、すべて中心に貫通孔をもつ管状土錐であり、その他の形状のものはみられない。しかしその形態にはいくつかの特徴がみられ、その共通性によって3形態（形態A・B・Cとした）に分類することが可能と思われる。また同形態中においてもさらに細かく形態や端部の状態によって分類することができるようである。

以下に分類の結果を示す。

#### 形態 形態A（第71～74図）

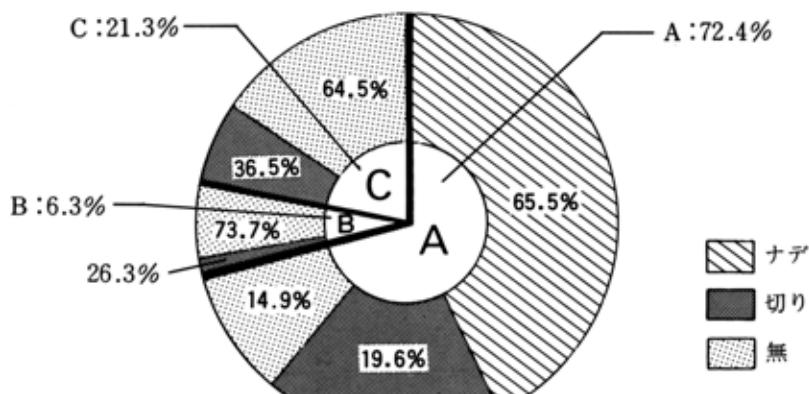
229点。まっすぐな円筒形を特徴とする。大部分が比較的大型のもの（A<sub>1</sub>）で、ごく少數きわめて小型のもの（A<sub>2</sub>）がみられる。すべて土師質で、細かい砂粒を少し含む、淡褐色～淡橙色の胎土をもつ。

A<sub>1</sub>：221点。長さ50.2～93.5mm、径27.7～46.6mm、孔径8.4～21.5mm、重量42.5～201.9gであり、3形態のうちで最も大きい。ほぼ定型的な形をしているが、両端の面（土錐の厚み）の状態からさらに細分することができると思われる。すなわち、

- ・端部をヘラ状のもので切ってそのままの面をもつもの41点（「切り」第71図1～32）、
- ・切った面の角をなでてなめらかにしているもの136点（「ナデ」第72図47～第74図144）、
- ・端面をもたないもの28点（「無」第74図145～160）の3種類で（不明17点）、ナデの状態のものが最も多いが、これは他の形態にはみられないもので、形態Aの特徴といえるであろう。

A<sub>2</sub>：7点。長さ27.2～46.4mm、径14.8～22.0mm、孔径4.0～8.1mm、重量5.7～27.8gと小型でサイズ的には後述のC形態の方に近いが、円筒形のためA形態に組み入れた。大型のものとの中間的な大きさのものも1点みられる（第72図46）。端面にはやはり切り（1点）。ナデ（2点）、無（3点）の3種類ともがみられる（不明1点）。

A<sub>1</sub>・A<sub>2</sub>とも製作時の指圧痕を顕著に残し、特に調整はなされていないものが大部分を占めているが、A<sub>1</sub>には、タタキの痕が残っているもの（第71図35～38）、ハケ目の入っているもの（第71図33、34）、丁寧なナデが行われているもの（第71図39）が、ごく少数例外的にみられる。



第3表 端面処理状況表

### 形態B (第75図161~178)

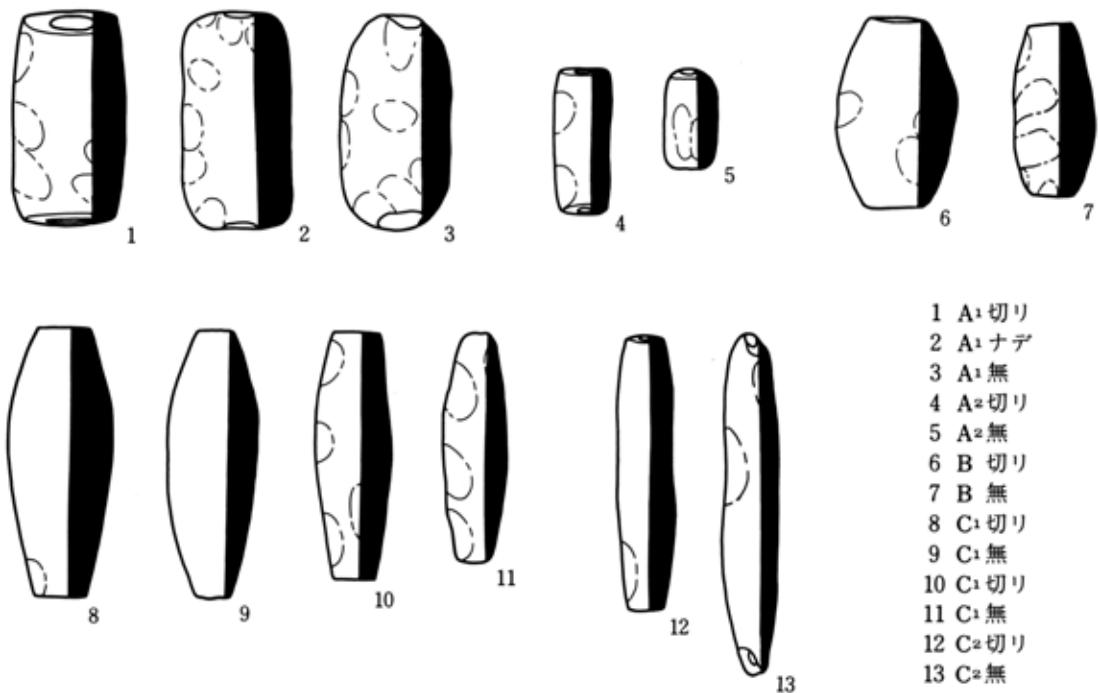
20点。中央部に最大径をもつそろばん珠状の紡錘形を特徴とする。すべて土師質。やや粗い砂粒を含み、茶褐色~黒褐色の胎土をもつ。焼成は、やや軟~良好。長さ41.3~68.5mm、径22.3~34.7mm、孔径4.4~12.9mm、重量23.2~67.0g。端面の状態は、「切り」4点(第75図161~164)「無」15点(第75図167~178)の2種類(不明1点)。Bの「無」の大きめのものにはA<sub>1</sub>の「無」との区別が難しいものもある。指圧痕を残し、特に調整はなされていない。

### 形態C (第75図179~229)

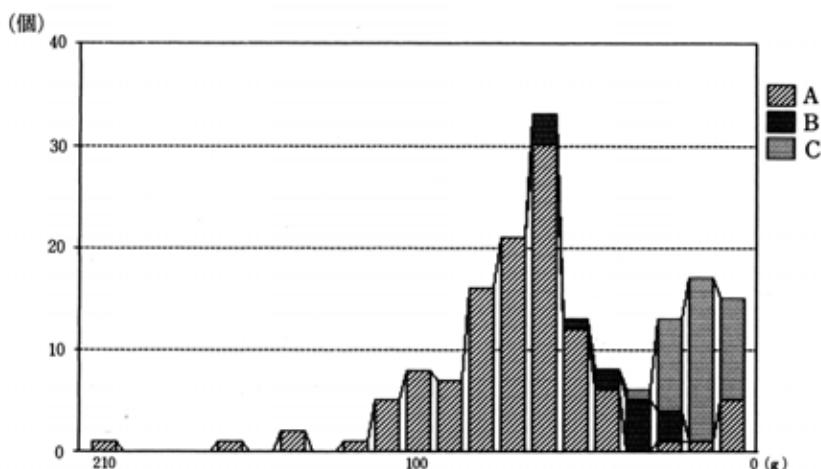
67点。細長い紡錘形を特徴とする。この形態はバリエーションに富み、丸みの強いもの(C<sub>1</sub>)と長細いもの(C<sub>2</sub>)とに大きく二分されるが、それぞれの中でも細かく分かれている。C<sub>1</sub>: 58点。細長い紡錘形で、土師質と須恵質(21点)とがある。丸みの強い比較的太めのもの(須恵質が多い、第75図179~184、189~201)と、それよりもやや細めで小型のもの(第75図185~188、202~221)とにも分かれるようである。土師質のものは、黄褐色~茶褐色で、細かい砂粒を含んだり、指圧痕を顕著に残しがちであるが、須恵質のものは、灰白色で胎土は精良で、概してなめらかにナデである。長さ41.4~72.0mm、径10.2~24.5mm、孔径3.3~7.0mm、重量4.9~35.5g。端面は、「切り」20点(第75図179~188)と「無」29点(第75図189~221)。

C<sub>2</sub>: 9点。やや長めで非常に細いもの。すべて土師質。細かい砂粒を含み、白色、黄褐色、淡橙色など様々な色をもつ。長さ9.3~63.3mm、径5.9~15.4mm、孔径1.4~5.4mm、重量0.8~9.8g。端面は「無」がほとんど(8点、第75図223~229)で、「切り」が1点(第75図222)。みな指圧痕が顕著。

形態による分類は以上の通りで、この形態の差異は、製作法の違いから、あるいは使用法の違いから生じるものと思われる。

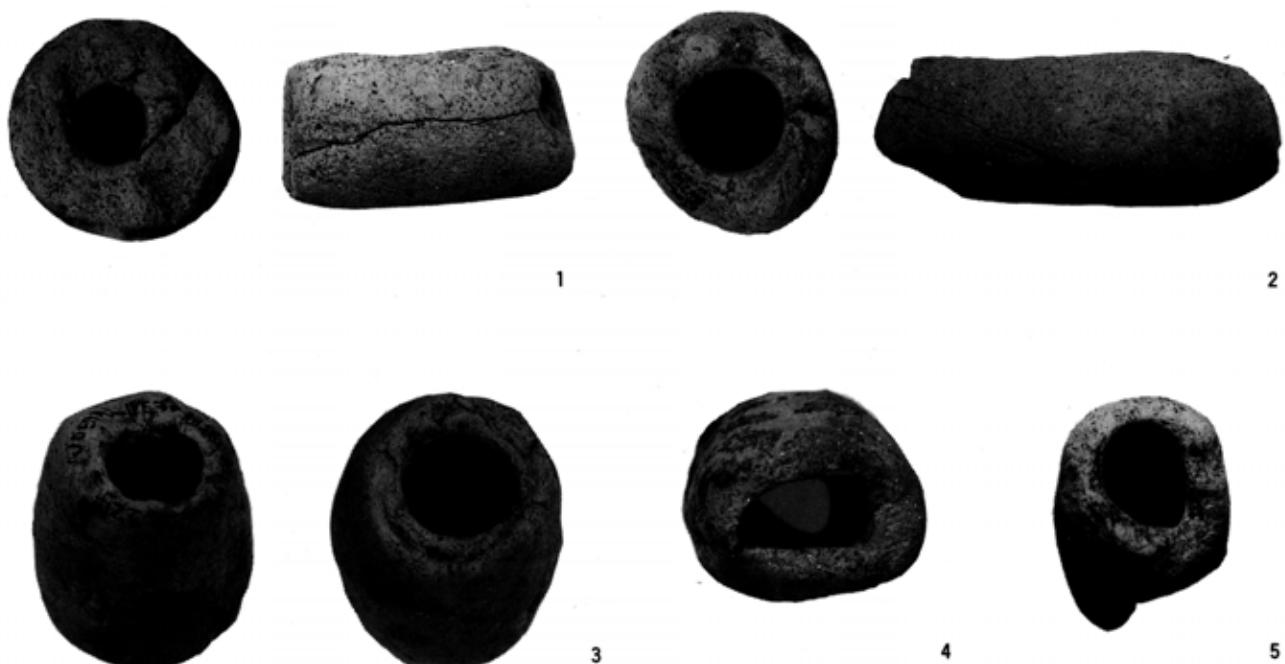


第69図 土種分類模式図



第4表 形態別重量分布表

**重 量** 次に、網を沈めるものとしての土錘にとって最も重要な属性である重量に注目してみる。ほぼ完形で重量を考慮できると思われるもの167点で、4.1～201.9gという広がりをみせるが、120gを超えるようなものはごく少数で、50～80gのものが最も多くみられる。第4、5表は、重量分布を形態でも分けて表したもので、これらから形態と特定重量との結びつきをみることができると思われる。すなわち、形態Aは40～210gの重い部分を占め、形態Cが30g以下の軽い部分、そして形態Bが20～50gと二者の中間の部分を占めている。また形態Aは、さらに細かく、A<sub>1</sub>にあたる5～15g、Aで最も多くみられる50～80g、その次に多い80～100g、それ以上という分布をみることができるようである。長さ、孔径と重量の関係は必ずしもはっきりしたものではなく、長いものが重い傾向にあるのは確かであるが、短くても厚みがあって重いというものもみられるのである。また端面の状態と重量の相関関係もはっきりしない。



第70図 製作法のわかる土錘

製作法 土錘の製作法は、土錘自身に残されている製作時の痕跡と思われるものから、おおよその方法を推測することができる。

- ・粘土を棒状のものに巻きつける。この巻いた状態のわかる土錘はしばしばみられ、そのつなぎめにおいて欠損がおきたりひびがはいたりしている（第70図1、2）。
- ・巻いた粘土を指や手の平で成形する。この時の指圧痕はほとんどの土錘に残っており、普通はそれだけしか行わないが、一部のものは、タタキを行っている。
- ・端面の処理は、面つまり厚みを中心の棒まで握りつぶしてしまえば、分類での「無」の状態になり、ヘラ状の道具で切ってしまえば「切り」となり、さらに丁寧に切ったものの角をナデて面取りすれば「ナデ」になる。この作り方から考えると、おそらく「無」は短い棒に粘土をつけ1つ1つ作ったと思われる。「切り」と「ナデ」は、長い棒に長く粘土を巻きつけ作ったとも考えられるが、やはり1つ1つ作って切ったものではないだろうか。切り口からみて、まだ少し柔らかさの残っている時に切断したと思われる。
- ・芯の棒を抜く。孔内面にしばしばこの時の痕跡の線が残っており、少し回しながら抜いたことがわかるものもある（第70図5）。砂粒の動きから、やはりまだ柔らかさの残る時に行われているようである。抜いたときはみ出した粘土が、そのまま残っているものもあり、中へ戻すように孔内へナデているものもある（第70図3）。また棒を抜いた後、さらに握り直すように形を整えることも行われたようで、孔内に絞ったような線が残っているものや形のゆがんでしまったものもある（第70図4）。
- ・しばらく乾燥させた後、焼きあげられた。この時の火の当たり具合で、一部に黒斑の入ったものがある。

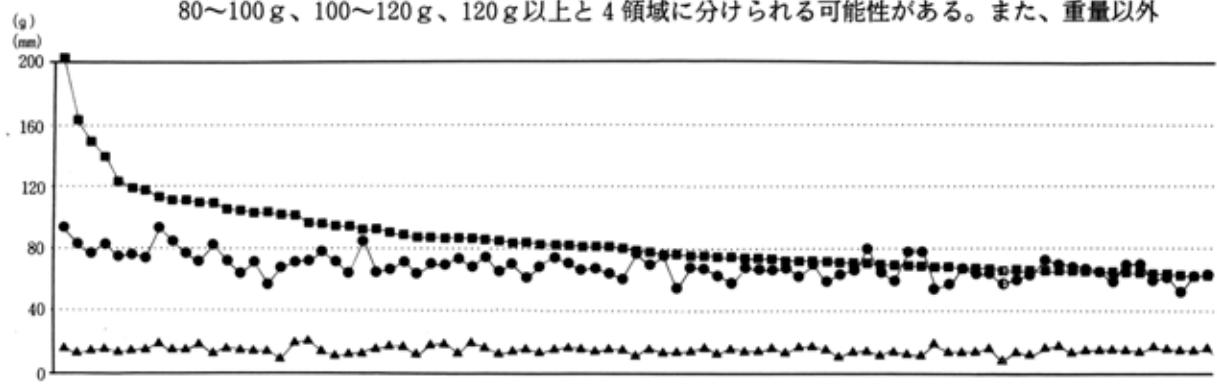
## まとめ

このように、大渕遺跡出土の土錘の傾向をみてきたが、そこから窺える問題点について以下に述べてみたい。

弥生時代から古墳時代後期にかけての基本的な変遷と分類については、和田晴吾氏の論考<sup>(1)</sup>で明かであるが、その中で量的に発展することで画期となると述べられている古墳時代後葉以降については、各地で不明な点が多い。また、管状土錘の基本的な分類については和田氏のa～eという五つの分類に示されているかと思われるが、そこからさらに細分を行う場合に、主な属性である重量・長さ・幅（周囲径）・孔径・形態・胎土の中で、どこに重きをおくかによって分類の基準が違ってきており、様々な“タイプ”を生む原因になっている。その中で特に着眼されるのが、重量・形態・長さの三属性である。これらはおそらく不可分な関係で相互に関連しあっているのであろうが、土錘を製作するうえで長さが最も比重を占めるとは考えにくく、重量の同じものでも長さにはかなり大きなばらつきがみられる。大渕遺跡の資料で例をあげると、256（長さ75.5mm・径33.3mm・孔径14.1mm・重量76.1g）、283（長さ54.4mm・径35.7mm・孔径14.1mm・重量75.9g）、105

(長さ76.9mm・径33.5mm・孔径11.7mm・重量78.6g)を比較すると、同孔径で重量が同じ場合には、長さと径は反比例の関係にあり、孔径が違うが、長さ・径・重量が同じなのは、器厚を厚くするからである。また別の視点がみると、62(長さ57.1mm・径33.2mm・孔径15.5mm・重量56.6g)と52(長さ80.0mm・径33.4mm・孔径15.4mm・重量71.1g)では、同径の原体に同じ厚さで粘土を巻くが、長さが違うために重量に差がでてきている。さらに、5(長さ80.0mm・径33.4mm・孔径15.4mm・重量71.1g)と215(長さ82.1mm・径41.8mm・孔径15.4mm・重量140.0g)を比べた場合、同径の原体に同じ長さで粘土を巻くが、粘土の厚さを変えることにより重量を違えている。つまり、製作のところで述べたが、型押し成形ではなく粘土を何らかの原体に巻き付けるかもしくは貼り付け、主に指ナデ・押圧で調整する当時の成形方法では、網の目の大きさを決定する“型”的なものを使って常に厳密な計測値をもって多量に製作することは難しく、製作者が経験的に認識している“土錘”に似ていればよしとするか、同じ重さで同形態ならば長さ・粘土の厚さ・原体の太さはそんなには問題ではないというような常識が製作時にあったものと思われる。また、第3表でみると形態A<sub>1</sub>の中でも孔径にはバラエティがあり、粘土を巻き付ける原体に統一があったとは考えにくく、漁労網への装着方法からみても繩の太さによって幾種類も用意されていたとも思えない。このようにみてくると土錘の分類を行う場合、「網錘たる土錘の役割とは、漁網を水中に沈めたり、あるいは浮子と併用されて、沈降力と浮力によって漁網を水中に直立させたりする点にある。したがって、重量という要素は、土錘のもつ属性のなかで、最も重要な要素にはかならない。」という和田氏の指摘<sup>(1)</sup>が示すとおり、重量が大きな要素となり、次に伝統的に継承され受け継がれている形態が大きな比重を占めるであろう。別の見方をすれば、ある魚種の捕獲を目的とした網とそれに装着する錘を製作しようとする場合、形・重さが製作者の意図とするところになり、粘土を巻き付ける原体の太細や長さの長短・粘土の量は上記の二つの目的に沿って隨時調節されていたものと思われる。

今回の分類では、まず第4表のように形態で分け、重量の分布と重ね合わした。この結果、形態のところで前述したが両要素には関連性があることが窺えた。形態A<sub>1</sub>では、重量は漸移的に推移し明確な変換点は見いだせず細分はしなかったが、50~80g、80~100g、100~120g、120g以上と4領域に分けられる可能性がある。また、重量以外



第5表 土錘計測グラフ

の属性については、あまり規則性がみられなかったが、端部調整について、ナデを施すものが70~90gの範囲ではなく、重いものと軽いものの2つのグループになる傾向がある。A<sub>2</sub>については、数が少なく形態Aの中にいたが、今後別形態になる可能性が高い。形態Bについては、まとまった形態・重量分布を示し、砂粒を多く含む胎土で暗褐色を呈するものがほとんどである。形態Cについては、細長い紡錘形を示すC<sub>1</sub>とさらに長さが長くなったC<sub>2</sub>に分かれる。形態C<sub>1</sub>はやや重く須恵質のものを含み、形態C<sub>2</sub>は軽く砂質の強い胎土を示すという特徴があり、将来的に2つのグループに分かれる可能性がある。以上のように分類については、さらに細分が可能であるが、そのことにより混乱をひきおこすというおそれもあったため、今回は大枠のものだけにとどめ、今後のまとまった資料の増加を待ちたいと思う。

形態と重量分布が密接な関係にあり、同時に記述したため、やや混乱してしまったきらいがあるが、両者の関連からグループ分けを行うと下記のようになる。

A グループ——形態A<sub>1</sub>

B グループ——形態B

C グループ——形態C<sub>1</sub>・形態C<sub>2</sub>・形態A<sub>2</sub>

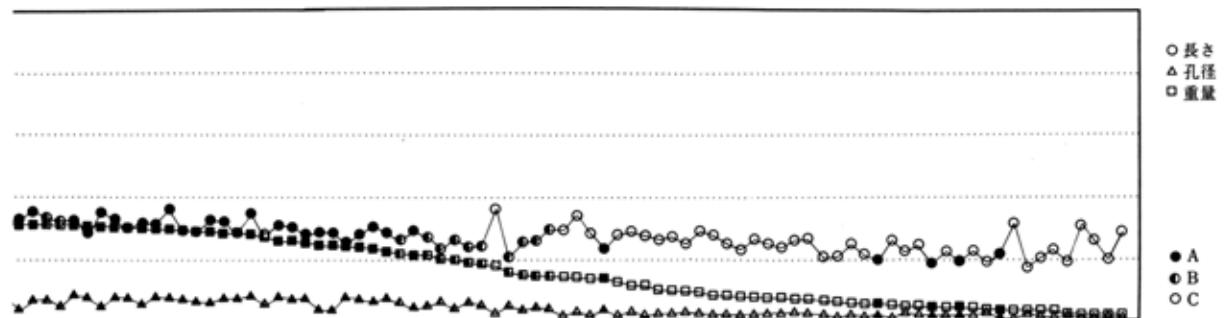
次に、これらの土錘がどのような漁労に使われ、どの種類の魚を捕獲していたかという問題であるが、これには、一つの網で数十から数百の単位で用いられる錘が遺跡では多くても数百の数しか出土しないこと、当時の遺跡環境（特に海や河川がどこにあり、どのような状況にあったのか）が正確に把握できていないということが大きな障害になっており、復元は困難なことである。そのため、現在行われている網漁労の資料を参考に推測してみたい。網の種類については、第6表に示したもの<sup>(2)</sup>が一般的に認められているものと思われ、これを基にしたい。農商務省水産局編纂『日本水産捕採誌』<sup>(3)</sup>と金田楨之『日本漁具・漁法図説』<sup>(4)</sup>より錘の重さのわかるものから平均的な値をだし、この重量値を先ほどの土錘の形態分類にあてはめると下記のようになる。

掩網類—11~15g（特に投網） C グループ

刺網類—3.8~225g B グループ

（20~100gのものが多い）

曳網類—75~1200g



(地曳網—75.0~112.5g)

(船曳網—1000g前後~数kg)

A グループ

旋網類—75~150g

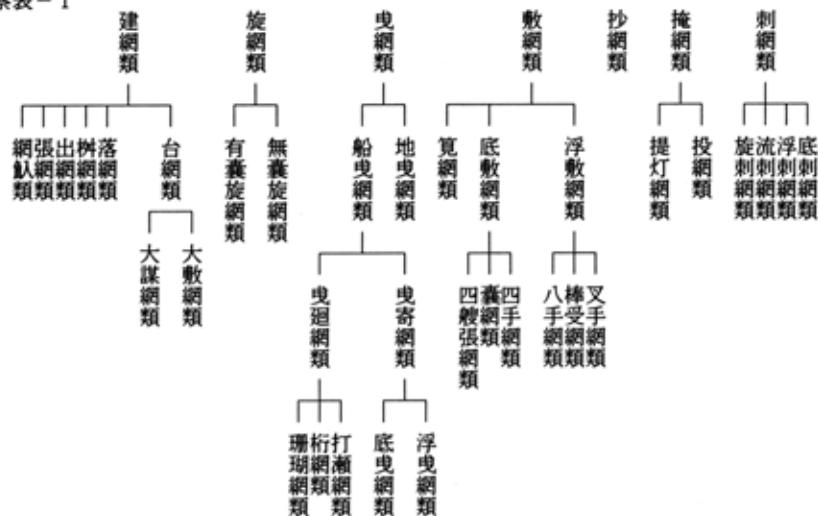
建網類—75~500g

漁労条件の違いがあるため、一概にこの値を使うことは問題があり、偏差は極めて大きいと思われるが、およその傾向は示していると考えると、C グループ<sup>(5)</sup>については、海岸部の遺跡・内陸部の遺跡とも出土するが、その占める比率は圧倒的に後者に多い。内陸部にある古墳時代～平安時代にかけての豊田市梅坪遺跡<sup>(6)</sup>では、計測された741点のほとんどがC グループにあたり、河川で使用されていたことがわかる。遺跡付近の河口で行われた掩網（投網か<sup>(7)</sup>）か小型船による簡単な曳網・旋網・刺網が考えられる。B グループについては類例は少なく、大阪湾周辺・遠江で僅かにみられるのみで、本県では一宮市清郷遺跡<sup>(8)</sup>で出土している。河口及び沿岸部で使用された刺網類に用いられたのである<sup>(9)</sup>。次に、最も一般的であるA グループであるが、このグループに属するものは山間部では出土せず、内陸部でも志貴野遺跡<sup>(10)</sup>のような大河川の近くの遺跡で使用されているようである。つまり流量の多い河川か海を対象に作られたものと思われ、沿岸部や内湾で行われる刺網類・曳網類・旋網類<sup>(11)</sup>・建網類が測定される。

以上、大渕遺跡出土の土錐の分析と推定の域をでない用途について述べてきた。この結果を遺跡に即して考えると、大渕Ⅰ期にあたる6世紀後半から7世紀にかけては、一定の形態・重量をもつ土錐をある程度の量必要とするような「計画的な漁労」が行われており、大渕Ⅱ期にあたる7世紀後半から8世紀前半には、形態Bの本格的な出現にみられる形態の分化や重量の分化がみられ、漁労の様相が若干変わってきているようである。その後、大渕Ⅲ期にあたる9世紀前半以降には規模の大きな漁労がおこなわれた様子はみられない。

(宮腰健司・古橋佳子)

考察表-1



## 註

- (1) 和田晴吾「弥生・古墳時代の漁具」『考古学論考 小林行雄博士古希記念論文集』1982
- (2) 高瀬増男「網漁具一資料一般」1977を基にした。
- (3) 渋澤敬三『日本水産捕採誌』農商務省水産局1910の復刻版1983による。
- (4) 金田楨之『日本漁具・漁法図説』1977
- (5) 形態Cについては管玉を模したものという見解（辰巳 均『下瀧遺跡』浜松市遺跡調査会1985）もあり、祭祠の場で使用された可能性も十分あるが、使用痕があるものが多いことや、漁網の一単位を思わず129点の形態Cの土鍤を同一土坑より出土した例（島根県教育委員会『前立山遺跡』）もあり、基本的には網鍤でよいと思う。
- (6) 杉浦裕幸「豊田市梅坪遺跡出土管状土鍤の分類」『三河考古 第3号』1990
- (7) 投網については、日本学士院日本科学史刊行会『明治前日本漁業技術史』では江戸中期以降の比較的新しい漁法とされている。
- (8) 澄田正一ほか『新編一宮市史 資料編四』1974
- (9) 小澤一弘氏の御教示によると、17世紀から19世紀にかけての名古屋城三の丸遺跡（財愛知県埋蔵文化財センター『名古屋城三の丸遺跡 I』1990）においては形態のBのものがみられる。
- (10) 財愛知県埋蔵文化財センター『志貴野遺跡・小島遺跡』1990  
小澤一弘「木曽川中流域のマス漁とウナギ漁」『民具マンスリー』第17巻9号 1984
- (11) (7)の文献によると旋網は比較的沖合いの漁労であるとされている。

## 参考文献

- 秋山高志ほか『図録・山漁村生活史事典』1981
- 青森県立郷土館『青森県民俗資料図録第2集 青森県の漁具』1975
- 尼崎市教育委員会『尼崎市金楽寺貝塚 II』1982
- 石川県立埋蔵文化財センター『寺家遺跡発掘調査報告 II』1988
- 折井ほか『南中部の生業2 漁業・諸識』1982
- 京都府立総合資料館『京都府の民具 3. 漁業』1979
- 財団法人東海水産科学協会・海の博物館『三重県水産図説』1883の復刻版1985
- 静岡県教育委員会『浜名湖における漁撈習俗 I』静岡県文化財調査報告書第30集98
- 鳥羽市教育委員会『鳥羽贊遺跡 第2次発掘調査報告』1987
- 埋蔵文化財研究会第19回研究集会資料『海の生産用具』1986
- 渡辺 誠『縄文時代の漁業』1973

第7表 土錐計測表

(造構番号は旧番のままである。単位はmm・g)

番号	調査区	造構	長さ	径	孔径	重量	焼成	形態	端面	調整	図版番号
1	58TP4		(63.0)			(22.3)	土師質	A		ユビ押圧	
2	58TP4		(24.0)		5.9	(5.4)	土師質	C		ユビ押圧	
3	58TP5		67.0	37.5	16.7	(75.0)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
4	58TP5		66.8	34.2	15.8	(50.0)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
5	58TP5		80.0	33.4	15.4	71.1	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-129
6	58TP6	S E 01	70.2	35.8	16.8	81.9	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-130
7	58TP6	S E 01	63.8	39.8	15.7	104.4	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 6
8	58TP6	S E 01	82.0	40.7	13.7	109.0	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-139
9	58TP6	S E 01	(47.0)	22.2	7.1	(20.6)	須恵質	C	切り	ナデ	75-180
10	58TP6	S E 01	70.7	32.9	18.1	65.9	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 7
11	58TP6	S E 01	63.5	35.3	16.8	62.4	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 58
12	58TP6	S E 01	54.7	19.8	6.4	20.1	須恵質	C	切り	ナデ	75-181
13	58TP6	S E 01	59.7	34.8	15.8	60.0	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 8
14	58TP6	S E 01	52.8	31.0	14.8	(41.7)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 47
15	58TP6	S E 01	57.3			(43.7)	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 1
16	58TP6	S E 01	61.4	35.9	15.5	83.1	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 9
17	58TP6	S E 01	59.9	33.0	16.5	(41.7)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 59
18	58TP6	S E 01	67.7	32.8	15.5	65.2	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 60
19	58TP6	S E 01	66.9	35.3	17.0	(62.4)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	71- 10
20	58TP6	S E 01	(21.5)	9.3	3.7	(1.3)	土師質	C	無	ユビ押圧	75-223
21	58TP6		(70.0)	33.6	15.6	(45.9)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 61
22	58TP7		72.3	32.6	16.7	66.4	土師質	A	無	ユビ押圧	
23	58TP10		(38.3)	18.3	6.8	(9.8)	土師質	C	ナデ	ユビ押圧	75-202
24	58TP10		(39.3)	27.3	8.8	(13.6)	土師質	B			
25	58TP12		72.0	24.5	6.4	35.5	土師質	C	切り	ユビ押圧	75-179
26	58TP12		46.4	32.9	13.2	39.9	土師質	B	無	ユビ押圧	75-165
27	59A	IV E 40 SK 09	(62.9)	38.4	16.9	(60.4)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 62
28	59A	IV E 40 SK 14	(58.7)	35.0	15.3	(48.0)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 63
29	59A	IV E 3p・q SK 16	70.1	38.0	18.1	72.3	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 64
30	59A	IV E 4n SK 19	73.0	35.0	13.6	86.5	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 65
31	59A	IV E 4n SK 19	67.1	30.7	18.6	(48.7)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 66
32	59A	IV E 4n SK 19	(53.6)	36.0	17.7	(46.2)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 67
33	59A	IV E 40 SK 19	61.0	34.7	16.8	(56.8)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 68
34	59A	IV E 40 SK 19	(56.8)	37.4	16.9	(53.0)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 69
35	59A	IV E 40 SK 19	76.8	34.0	16.1	(60.7)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 70
36	59A	IV E 4n SK 19	54.9	36.0	15.6	50.5	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 48
37	59A	IV E 4n SK 19	(60.8)	40.1	17.6	(57.3)	土師質	A	無	ユビ押圧	74-145
38	59A	IV E 40 SK 19	(63.5)	34.0	13.4	(44.6)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 71
39	59A	IV E 40 SK 19	(50.2)	33.3	14.1	(36.9)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 49
40	59A	IV E 40 SK 19	(49.1)	36.0	15.4	(40.0)	土師質	A	無	ユビ押圧	74-146
41	59A	IV E 40 SK 19	(69.2)	36.0	15.4	(51.0)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 72
42	59A	IV E 4n SK 19	(55.4)	32.3	14.8	(38.5)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 73
43	59A	IV E 4n SK 19	73.3	40.0	16.0	(75.8)	土師質	A	無	ユビ押圧	74-147
44	59A	IV E 4n SK 19	63.0	38.1		(48.4)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 74
45	59A	IV E 4n SK 19	69.0	35.1	15.5	(42.2)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 75
46	59A	IV E 4n SK 19	(60.4)			(27.7)	土師質	A		ユビ押圧	
47	59A	IV E 6n SK 26	71.6	35.6	16.7	(61.7)	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 11
48	59A	IV E 6n 検出	56.4	15.4	5.4	(9.0)	土師質	C	無	ユビ押圧	75-203
49	59A	IV E 5h 検出	(33.7)	15.0	6.9	(5.0)	土師質	C	無	ユビ押圧	75-224
50	59A	IV E 3p 検出	64.8	39.8	16.0	92.0	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
51	59A	IV E 4o 検出	68.4	35.5	13.8	72.9	土師質	A	無	ユビ押圧	74-148
52	59AL	IV E 5o 検出	63.0	35.6	15.8	(64.2)	土師質	A	無	ユビ押圧	
53	59AL	IV E 2o 検出	65.2	36.9	16.3	60.3	土師質	A	無	ユビ押圧	74-149
54	59AL	IV E 3o 検出	55.6	33.7	14.9	47.6	土師質	A	無	ユビ押圧	
55	59A	IV E 9n 検出	57.6	20.9	7.0	23.3	須恵質	C	切り	ナデ	

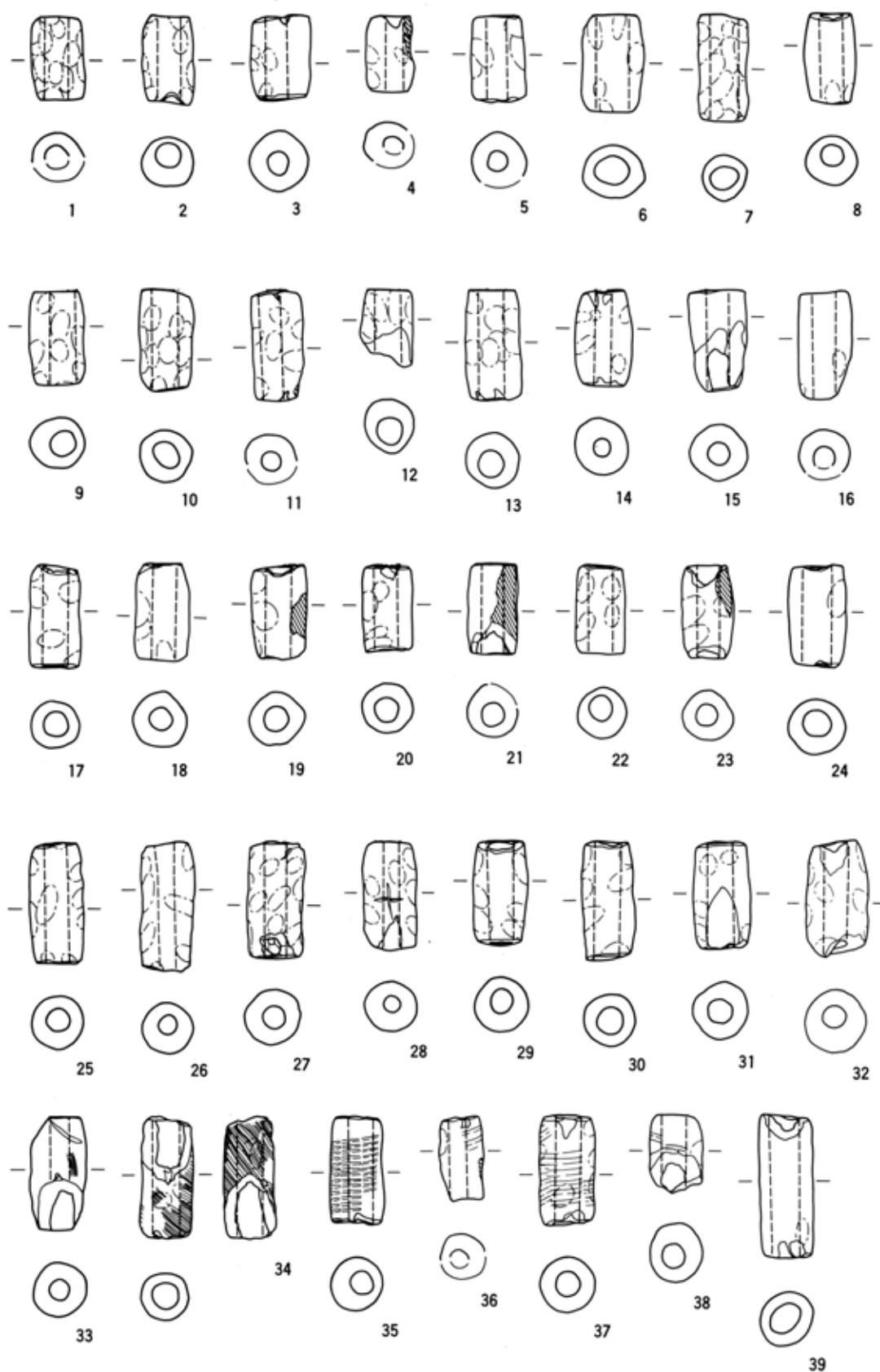
番号	調査区	遺構	長さ	径	孔径	重量	焼成	形態	端面	調整	図版番号
56	59B	検出	58.8	35.0	16.4	(51.2)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
57	59B	検出	42.9	17.6	6.8	(10.0)	土師質	C	無	ユビ押圧	75-189
58	59B	IVE18j SE02	66.0	34.2	15.7	65.0	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 76
59	59B	IVE18j SE02	(21.0)		9.4	( 6.6)	土師質	B	切り	ナデ	75-161
60	59B	検出	47.8	20.5	6.4	15.4	須恵質	C	無	ナデ	75-190
61	59B	検出	(65.1)	37.1	16.2	(41.4)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
62	59B	IVE17i 検出	57.1)	33.2	15.5	56.6	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 2
63	59B	IVE17i 検出	38.7	15.1	6.0	8.4)	土師質	C	無	ナデ	75-191
64	59B	IVE18k SK37	68.5	36.0	15.0	75.8	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 77
65	59B	IVE18k SK01	67.0	36.6	17.3	75.1	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 78
66	59B	IVE18k SK01	(54.0)		18.0	(36.2)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74- 79
67	59B	IVE17k SK01中	(52.4)	36.1	16.0	(55.9)	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 12
68	59B	IVE17k SK01中	78.3	32.7	13.6	69.7	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-131
69	59B	IVE16k SK45	(45.7)	34.7	15.8	(43.6)	土師質	A	ナデ	ナデ	75- 80
70	59B	IVE17k SK01粹	52.2	16.9	3.4	11.4	土師質	C	無	ユビ押圧	75-204
71	59C	検出	71.7	40.7	19.0	109.1	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-140
72	59C	検出	68.5			(51.8)	土師質	A		ユビ押圧	
73	59C	検出	71.7	38.4	16.2	104.8	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 13
74	59C	VE3i SK14	48.3	30.0	12.5	37.9	土師質	B	無	ユビ押圧	75-166
75	59C	VE3i SK21	(51.5)	32.3	13.2	(33.0)	土師質	A		ユビ押圧	
76	59D	VE9f SK11	71.8	40.0	15.0	103.0	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 81
77	59E	南サブトレ	(29.4)	9.4	4.3	( 1.4)	土師質	C	無	ユビ押圧	75-225
78	59F	表土	56.5	42.9	15.0	102.8	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 3
79	59F	検出	40.1	14.5	4.6	( 6.8)	土師質	C	無	ユビ押圧	75-205
80	59F	検出	(26.0)			( 7.4)	土師質	?		ユビ押圧	
81	59G	SK08	77.9	35.0	14.9	95.4	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 25
82	59G	検出	84.1	35.4	15.3	110.9	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 26
83	59G	検出	76.6	36.2	15.5	(95.4)	土師質	A	切り	ハケ・ナデ	71- 33
84	59G	検出	65.3	34.5	17.5	68.0)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73- 82
85	59G	検出	63.8	38.1	12.9	87.2	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 14
86	59G	検出	(61.0)			(30.6)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
87	59G	検出	(51.0)			(30.1)	土師質	A	無	ユビ押圧	
88	59G	検出	(39.2)	22.4	6.3	(16.6)	須恵質	C	切り	ナデ	
89	59G	検出	(34.3)			(14.1)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
90	59G	表土	(50.9)			( 9.5)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
91	59G	検出	52.6	31.8	12.9	43.3	土師質	B	無	ユビ押圧	75-167
92	60A1	III E18j SK152	93.5	38.6	19.4	112.9	土師質	A	ナデ	ナデ	71- 39
93	60A1	III E16K SK166	70.8	36.7	17.4	88.1	土師質	A	ナデ	T後ナデ	71- 35
94	60A1	III E19j SK167	(77.0)	41.2	17.0	(80.2)	土師質	A	無	ユビ押圧	74-159
95	60A1	III E18K SK173	59.8	36.6	17.5	63.7	土師質	A	切り	ユビ押圧	73- 83
96	60A1	III E17i SK368	(56.4)			(26.0)	土師質	A	ナデ	T後ナデ	71- 36
97	60A2	IVE2i SE07	(61.5)	38.3	12.3	(73.9)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73- 84
98	60A2	IVE6k SK03	92.9	46.6	16.6	201.9	土師質	A	無	ユビ押圧	74-160
99	60B1	III E181 SD02	(68.6)	38.0		(44.9)	土師質	A		ユビ押圧	
100	60B1	SD03下層	64.5	35.4	17.0	(58.9)	土師質	A	無	ユビ押圧	74-150
101	60B1	III E161 SK71	(50.9)	31.0	14.3	(42.3)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73- 85
102	60B2	III E20m SK07	(38.6)	(39.6)	(17.4)	(25.7)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73- 86
103	60C2	IV E91 SD01	74.9	36.6	17.3	85.9	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 27
104	60C2	IV E5H SD13	52.6	18.3	6.7	15.1	須恵質	C	無	ユビ押圧	75-193
105	60C2	S E01	76.9	33.5	11.7	78.6	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-132
106	60C2	IV E4h SK01上	(72.3)	35.6	18.5	(46.8)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73- 87
107	60C2	IV E2h SK264	( 9.3)	5.9	1.4	( 0.8)	土師質	C		ユビ押圧	75-226
108	60C2	IV E7g SD16	(74.2)	38.2	16.9	(87.7)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-141
109	60C3	IV E6h SB02	56.3	17.8	5.4	17.3	土師質	C	無	ユビ押圧	
110	60D	南壁サブトレ	46.2	16.8	6.0	10.4	須恵質	C	無	ユビ押圧	75-210
111	60D	検出	82.9	40.3	13.0	162.5	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-142
112	60D	検出	(38.3)			( 8.4)	土師質			ユビ押圧	

番号	調査区	遺構	長さ	径	孔径	重量	焼成	形態	端面	調整	図版番号	
113	60D	検出	(60.8)			(16.2)	土師質	A	無	ユビ押圧		
114	60D	検出										
115	60D	検出	59.4			(47.6)	土師質	A	切り	ユビ押圧		
116	60D	IVE 9e SD01上	(44.3)			(12.7)	土師質	A		ユビ押圧		
117	60D	IVE 9c SD01上	78.2	36.1	12.7	(54.8)	土師質	A	無	ユビ押圧	74-151	
118	60D	IVE 9c SD01上	57.1	15.3	4.5	(9.8)	土師質	C	無	ユビ押圧	75-206	
119	60D	SD01上層	40.3	11.4	4.2	4.9	土師質	C	無	ユビ押圧	75-207	
120	60D	IVE 9e SD01上	52.3	31.5	9.3	39.5	土師質	B	無	ユビ押圧	75-168	
121	60D	IVE 10e SD01下	56.1	20.6	4.9	25.3	須恵質	C	切り	ヘラ削り	75-183	
122	60D	IVE 10e SD01下	(51.8)			14.3	(19.2)	土師質	A	無	ユビ押圧	74-152
123	60D	IVE 9e SD01下	78.6	32.0	12.6	69.5	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-133	
124	60D	IVE 6c SD02	69.0	31.5	14.8	68.4	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73- 88	
125	60D	IVE 5d SD02上	78.7	32.3	17.8	(50.1)	土師質	A	切り	ハケ	71- 34	
126	60D	SK05	(21.5)			4.2	(2.9)	土師質	C	無	ユビ押圧	75-208
127	60D	SK07	(35.4)				(13.1)	土師質	A		ユビ押圧	
128	60D	SK07	(25.2)				(6.0)	土師質	A	無	ユビ押圧	
129	60D	P13柱痕	38.4	11.6	3.9	5.1	土師質	C		ユビ押圧	75-209	
130	60D	P20掘り方	67.3	35.3	9.7	101.5	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73- 89	
131	60D	P20掘り方	71.0	35.0	11.8	94.3	土師質	A	切り	ユビ押圧		
132	60D	表土	62.0	33.0	10.6	(45.1)	土師質	B	無	ユビ押圧	75-169	
133	60D	表土	44.5	17.0	5.8	(12.0)	土師質	C	無	ユビ押圧	75-195	
134	60E	IVD14b 検出	(32.2)	13.4	4.0	(4.9)	須恵質	C	無	ユビ押圧	75-211	
135	60E	IVD16a 検出	(60.7)			(27.3)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧		
136	60E	IVD16b 検出	(54.4)	26.0	6.3	(26.6)	土師質	C	切り	ユビ押圧		
137	60E	IVD16b 検出	(35.6)	17.9	3.8	(6.2)	土師質	C	無	ユビ押圧		
138	60E	IVD16b 検出	(37.1)			(10.8)	土師質	A	切り	ユビ押圧		
139	60E	IVD17a 検出	(47.2)			12.5	(14.2)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
140	60E	IVD15b.c 検出	58.9	32.3	9.8	67.0	土師質	B	無	ユビ押圧	75-170	
141	60E	SE03上層	69.4	30.9	10.5	60.8	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73- 99	
142	60E	SD01上	57.1	9.3	2.6	4.1	土師質	C	無	ユビ押圧	75-227	
143	60E	SD01上	61.6	25.9	7.8	(31.9)	土師質	B	無	ユビ押圧	75-171	
144	60E	SD01上	67.2	32.5	13.7	82.9	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 29	
145	60E	IVD15b SD01	76.2	37.0	13.6	(80.8)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73- 90	
146	60E	SD01下層	57.5	37.4	13.7	(62.3)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73- 92	
147	60E	SD01下層	72.3	33.1	15.3	59.0	土師質	A	無	ユビ押圧	74-153	
148	60E	SD02サブトレ内	65.7	32.8	12.7	70.3	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73- 93	
149	60E	SD02サブトレ内	70.0	34.6	16.6	77.7	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-134	
150	60E	SD02	69.6	37.8	18.2	87.1	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-135	
151	60E	SD02サブトレ内	71.9	41.0	21.5	96.3	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-136	
152	60E	SD02下層	66.9	35.4	17.0	73.7	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73- 94	
153	60E	SD03	68.7	40.4	19.4	86.6	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73- 95	
154	60E	IVD19t SD03	62.7	36.3	16.0	59.4	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73- 96	
155	60E	SD03上層	(55.8)	33.2	16.1	(41.4)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73- 97	
156	60E	17a SK48	50.8			11.6	(34.7)	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 4
157	60E	SX01 C群	58.3	35.6	14.7	68.7	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-100	
158	60E	SX01 C群	62.0	35.1	16.2	63.6	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-101	
159	60E	SX01 C群	57.9	33.0	14.7	58.4	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-102	
160	60E	SX01 C群	64.3	34.7	15.1	68.3	土師質	A	無	ユビ押圧	74-154	
161	60E	SX01 D群	67.0	33.7	14.8	71.8	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-103	
162	60E	IVE 17a 検出	65.4	35.2	12.5	85.0	土師質	A	ナデ	ユビ押圧		
163	60E	IVE 17a 検出	61.7	9.7	2.4	5.0	土師質	C	無	ユビ押圧	75-228	
164	60E	IVE 17a 検出	63.3	11.2	2.4	7.5	土師質	C	無	ユビ押圧	75-229	
165	60E	IVE 18t 検出	56.5	30.3	15.2	44.4	土師質	A	ナデ	ユビ押圧		
166	60E	IVE 18a 検出	65.3	31.2	12.7	57.5	土師質	A	ナデ	ユビ押圧		
167	60E	IVE 18a 検出	58.8	38.2	16.5	75.0	土師質	A	ナデ	ユビ押圧		
168	60E	IVE 19b 検出	50.5	19.2	5.7	17.2	土師質	C	無	ユビ押圧		
169	60E	表土	63.5	35.1	13.1	75.0	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	75-196	

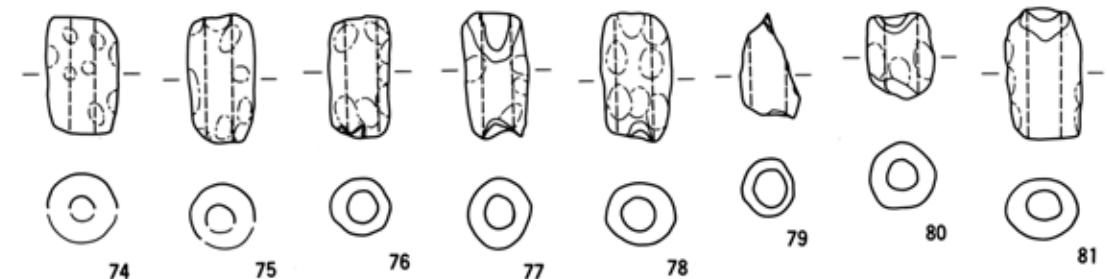
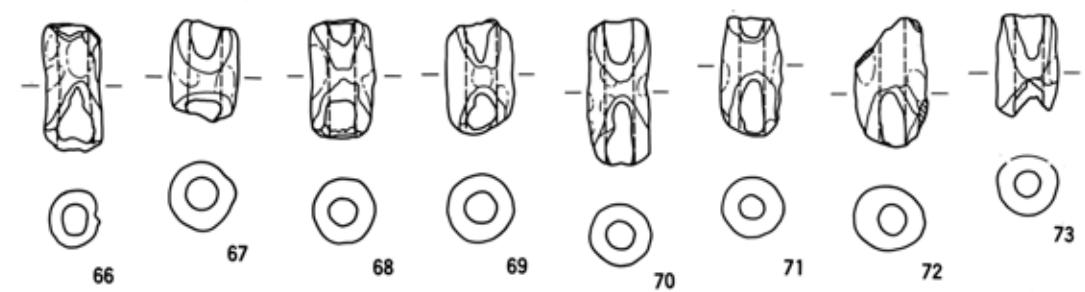
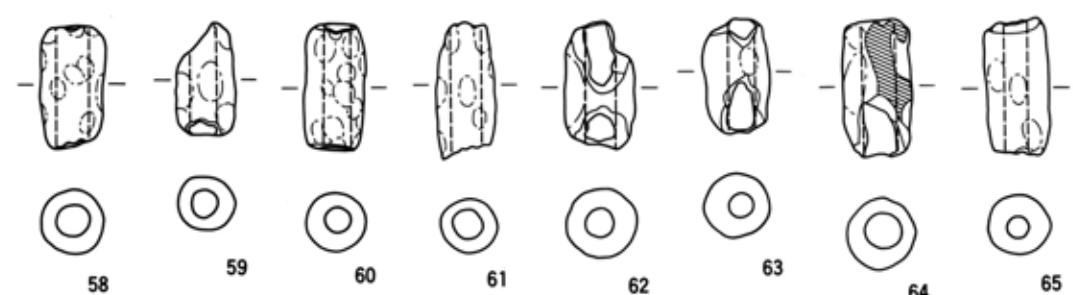
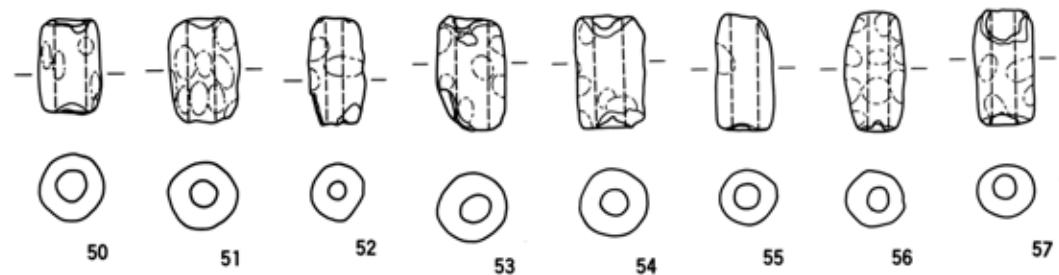
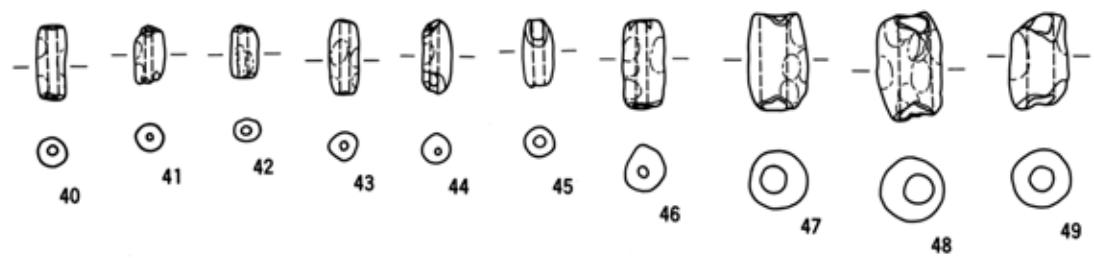
番号	調査区	遺構	長さ	径	孔径	重量	焼成	形態	端面	調整	図版番号
170	60F	IVE14j SD10	68.7	29.7	10.7	(57.0)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-105
171	60F	SE01	51.2	12.9	5.3	(14.0)	須恵質	C		ナデ?	75-212
172	60F	IVE16h SD01下	59.0	21.4	5.0	28.3	須恵質	C	切り	ユビ押圧	75-184
173	60F	IVE16h SD01下	71.2	36.0	19.6	101.1	土師質	A	切り	T後ナデ	71- 37
174	60F	IVE14d SK25	67.5	36.8	14.5	81.0	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-106
175	60F	IVE14d SK27	70.2	33.3	14.9	64.7	土師質	A	無	ユビ押圧	74-156
176	60F	IVE14d SK28	(30.8)	(39.0)	13.1	(35.1)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-107
177	60F	IVE13.4f SK45	45.5	13.7	4.6	8.9	土師質	C	切り	ユビ押圧	75-185
178	60F	SK83	74.7	38.7	14.4	123.3	土師質	A	無	ユビ押圧	74-157
179	60F	P16	(61.7)	27.1	13.3	(36.2)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-108
180	60F	P325	(51.2)			(17.4)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-109
181	60F	P704	61.0	35.0	15.0	66.8	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 53
182	60F	検出	65.4	32.1	17.7	62.0	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-110
183	60F	検出	53.1	19.2	5.4	16.1	土師質	C	切り	ユビ押圧	75-186
184	60F	検出	75.9	39.5	15.8	110.6	土師質	A	無	ユビ押圧	
185	60F	IVD14d 検出	46.4	22.0	8.1	27.8	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 46
186	60F	IVD16g 検出	(49.4)	33.1	12.9	(36.2)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
187	60F	IVD16h 検出	56.1	35.6	13.0	69.0	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 5
188	60F	IVD17g 検出	50.4	21.7	6.7	20.0	須恵質	C	切り	ユビ押圧	
189	60F	IVD17g 検出	50.0	19.0	5.8	15.8	須恵質	C	無	ユビ押圧	75-213
190	60F	IVD17g 検出	68.6	33.8	16.8	55.8	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-111
191	60F	IVD18g 検出	39.9	19.4	4.5	(15.6)	土師質	C	無	ユビ押圧	
192	60F	IVD14d 検出	61.3	35.9	15.8	79.7	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-112
193	60F	IVD14e 検出	65.7	35.1	16.1	(60.3)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
194	60F	IVD14f 検出	(46.1)	37.7	17.4	(54.0)	土師質	A	切り	T後ナデ	71- 38
195	60F	IVD17c 検出	(31.7)	19.4	4.0	( 7.6)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 41
196	60F	IVD17d 検出	38.2	16.3	5.0	9.7	土師質	A	無	ユビ押圧	72-198
197	60F	IVD18f 検出	50.5	18.3	5.7	12.7	須恵質	C	切り	ユビ押圧	
198	60F	IVD19e 検出	75.4	41.3	14.9	118.5	土師質	A	無	ユビ押圧	71- 28
199	60F	表土	(88.2)	(35.1)	(13.2)	(58.3)	土師質	A		ユビ押圧	
200	60F	表土	(42.2)	35.0	14.2	(42.4)	土師質	A	切り	ユビ押圧	
201	60F	表土	(36.7)	34.6	15.9	(31.1)	土師質	A		ユビ押圧	
202	60F	表土	66.5	35.1	15.9	81.3	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-113
203	60F	表土	(44.6)	14.8	5.3	( 8.6)	土師質	C	無	ユビ押圧	75-214
204	60F	表土	57.8	19.5	6.0	18.9	須恵質	C	切り	ユビ押圧	
205	60F	表土	49.8	15.9	5.6	10.3	土師質	C	無	ユビ押圧	75-215
206	60F	表土	52.0	20.8	6.0	20.4	須恵質	C	無	ユビ押圧	75-199
207	60F	表土	(57.5)			(30.4)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
208	60F	表土	(57.1)			(18.5)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
209	60F	表土	(29.9)			( 3.6)	土師質	C	無	ユビ押圧	
210	60F	表土	(39.7)		14.3	(17.4)	土師質	A		ユビ押圧	
211	60F	表土	(62.0)		16.8	(38.7)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
212	60F	表土	69.7	32.4	13.9	(80.0)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-114
213	60G	VD1r 検出	(54.3)	41.4	16.1	(82.8)	土師質	A	無	ユビ押圧	
214	60G	VD3t 検出	61.9	34.7	15.2	62.5	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-143
215	60G	VD2a 検出	82.1	41.8	15.4	140.0	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
216	60G	表土	(46.0)			(15.8)	土師質	A		ユビ押圧	
217	60G	VD1t SD01	64.5	37.2	14.8	(69.4)	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 15
218	60G	VD4s SD05下	41.9	17.1	4.2	13.5	須恵質	C	切り	ユビ押圧	75-187
219	60G	VD4q 検出	68.5	23.3	7.1	28.2	土師質	A	無	ユビ押圧	
220	60G	VD3r 検出	(27.2)	14.8	4.6	( 5.7)	土師質	A	無	ユビ押圧	72- 42
221	60G	表土	59.8	35.8	15.9	72.1	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 54
222	60G	表土	74.1	33.2	16.1	82.6	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 30
223	60G	表土	83.9	34.9	13.3	92.1	土師質	A	無	ユビ押圧	
224	60G	表土	(68.4)	33.6	14.6	(58.1)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
225	60I	SK03	(60.5)	47.1	17.6	(103.3)	土師質	A	無	ユビ押圧	74-158
226	60I	南壁トレンチ	59.2	25.1	9.1	29.6	土師質	B	無	ユビ押圧	75-172

番号	調査区	遺構	長さ	径	孔径	重量	焼成	形態	端面	調整	図版番号
227	60I		(54.2)	32.6	14.3	(48.5)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
228	60I		64.7	36.0	16.0	80.9	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 18
229	60I		56.0	34.7	11.7	54.1	土師質	B	無	ユビ押圧	75-173
230	60I	VD8r検出	59.7	34.5	15.9	65.0	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 19
231	60I	表土	(53.9)	20.6	8.6	(19.9)	土師質	C	無	ユビ押圧	75-201
232	60J	VE SD01	51.6	25.8	9.9	29.6	土師質	B	無	ユビ押圧	75-174
233	60J	SD11	63.8	38.4	12.9	94.1	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-125
234	60J	SD17	(32.2)	15.5	3.5	( 6.7)	土師質	C	無	ユビ押圧	75-219
235	60J	SD19	55.1	33.6	19.5	68.7	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 20
236	60J	SK08上層	(30.2)			(10.3)	土師質	A		ユビ押圧	
237	60J	SK26	(32.9)	16.1	5.3	( 8.5)	土師質	C	無	ユビ押圧	75-220
238	60J	SK36	(42.8)	32.3	11.1	(45.0)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-126
239	60J	SK45	69.3	33.6	14.4	65.8	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-127
240	60J	SK51	55.3			(25.2)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
241	60J	VE6c 検出	69.5	34.1	15.6	64.9	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-128
242	60J	VE10d 検出	53.8	29.9	10.2	42.4	土師質	B	無	ユビ押圧	75-175
243	60J	西トレンチ	41.3	28.7	11.5	31.1	土師質	B	無	ユビ押圧	75-176
244	60J	検出	(49.1)			(25.3)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
245	60J	検出	46.6	13.9	3.3	7.3	土師質	C	無	ユビ押圧	75-218
246	60J	検出	(59.3)	36.8	14.8	(62.5)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
247	60J	表土	58.9	34.0	14.6	(53.7)	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 21
248	60J	表土	56.8	32.0	15.9	61.0	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 22
249	60J	検出	(61.9)	34.0	18.1	(58.8)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
250	60J	検出	53.2	18.2	6.3	15.0	須恵質	C	切り	ユビ押圧	
251	60K	検出	64.3	33.7	11.9	72.0	土師質	A	切り	ユビ押圧	75-221
252	60K	VD13q SD01	65.9	29.8	9.0	62.4	土師質	B	切り	ユビ押圧	75-162
253	60K	VD1 r SD01	(41.2)	(20.5)	4.3	(12.1)	土師質	C	切り	ユビ押圧	75-188
254	60K	VD14q SK56	45.3	16.0	5.2	9.6	土師質	C	無	ユビ押圧	
255	60K	II期直上	46.1	25.1	10.6	(19.6)	土師質	B	切り	ユビ押圧	75-163
256	60K	VD12r 北壁トレンチ	75.5	33.3	14.1	76.1	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-138
257	60K	VD12q 北壁トレンチ	60.0	34.0	14.6	70.2	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 23
258	60K	表土	65.8	37.6	17.8	90.0	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 24
259	60K	VD15s SK16	64.4	30.5	11.0	62.4	土師質	B	切り	ユビ押圧	75-164
260	60L	VD13a SD04埋土	48.7	29.4	11.3	36.4	土師質	B	無	ユビ押圧	75-177
261	60L	VE16c 検出	(48.8)	20.6	6.0	(18.1)	須恵質	C		ユビ押圧	
262	60L	検出	(38.4)			( 8.6)	土師質	C	切り	ユビ押圧	
263	60L	VE12・13c 検出	50.7	26.2	8.2	29.9	土師質	B	無	ユビ押圧	75-178
264	60E	IVE14b SD01	(49.3)	37.3	15.3	(51.7)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73- 91
265	60E	SD04上層	57.3	31.9	13.5	57.6	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73- 98
266	60E	SD04	55.5	22.3	4.7	23.2	土師質	C	無	ユビ押圧	75-194
267	60H	SD01下層	(49.8)	35.4	15.9	(26.9)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-115
268	60H	SD01	66.3	35.6	16.0	(65.3)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-116
269	60H	SD11	70.4	34.2	14.1	(51.4)	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 16
270	60H	SD301	60.3	31.4	14.5	51.7	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 55
271	60H	SD301	40.2	16.1	4.4	11.7	土師質	A	切り	ユビ押圧	72- 40
272	60H	SD305	70.3	34.6	15.0	62.4	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 17
273	60H	VD2c SE303下面	63.5	30.8	11.8	59.5	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 56
274	60H	VE1f SE301	(45.3)	33.1	13.1	(28.5)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-117
275	60H	VE3b SK13	60.5	30.4	13.0	46.4	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 57
276	60H	VE3b SK13	(66.2)	37.4	16.1	(75.3)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-118
277	60H	VE3b SK13	50.2	(34.3)	16.6	48.3	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 50
278	60H	SK301	67.9	37.5	19.9	86.1	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 31
279	60H	SK301	(38.6)			(11.4)	土師質	A	切り	ユビ押圧	
280	60H	SK301	(59.5)	37.9	13.2	(37.2)	土師質	A		ユビ押圧	
281	60H	VD2c SE303下面	67.6	35.7	15.2	(67.3)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-119
282	60H	SK305	62.8	35.0	17.5	72.7	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-120
283	60H	VE4e SK306	54.4	35.7	14.1	75.9	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 51

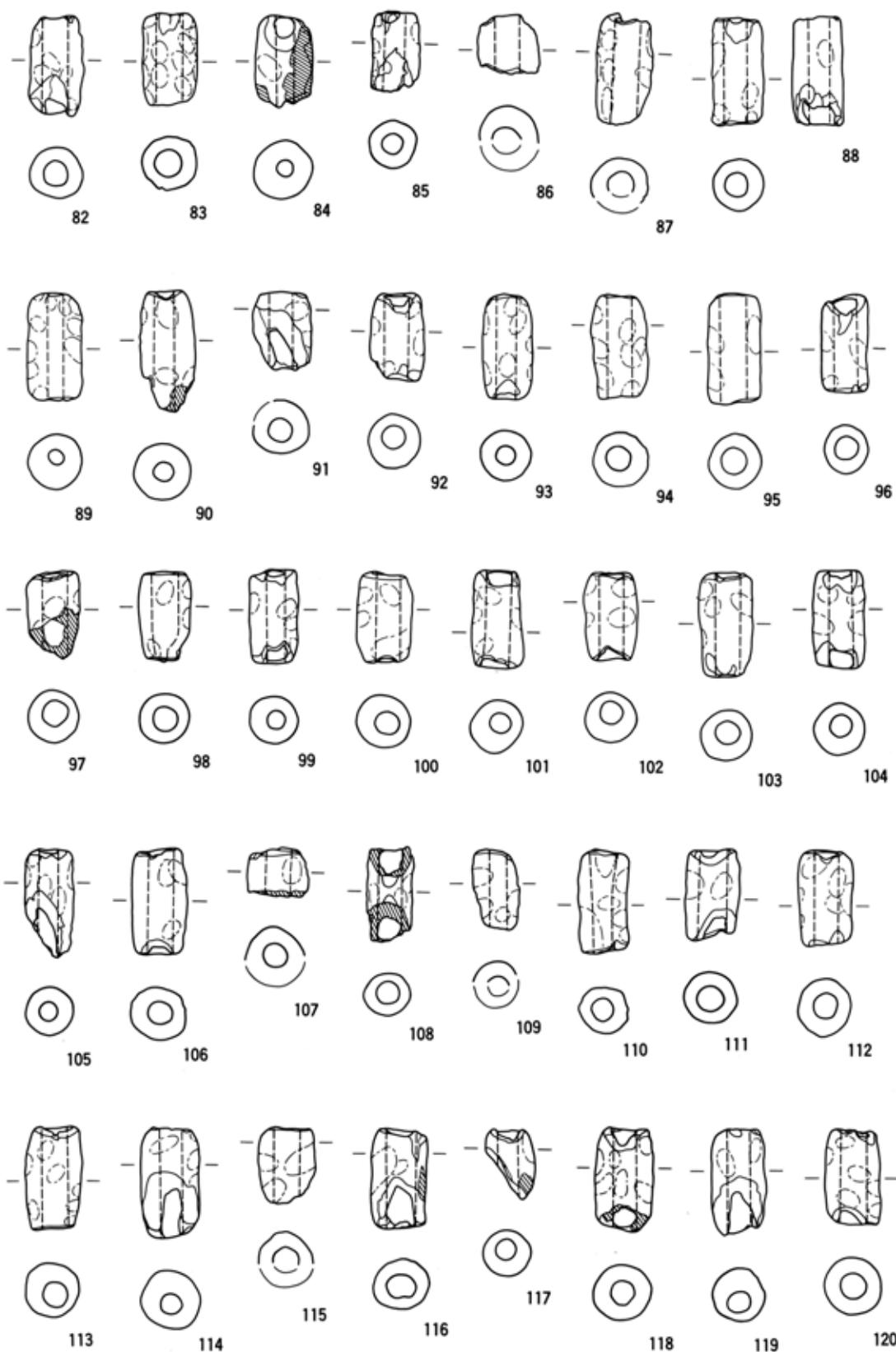
番号	調査区	遺構	長さ	径	孔径	重量	焼成	形態	端面	調整	図版番号
284	60H	V E 4e SK 320	69.4	35.5	14.4	83.2	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-137
285	60H	V E 4e SK 320	76.8	42.1	14.7	149.4	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-144
286	60H	V D 3d P 387	43.5	14.5	3.5	7.7	土師質	C	無	ユビ押圧	75-216
287	60H	V E 4d P 400	(48.4)	32.1	15.2	(41.5)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-121
288	60H	V E 4d P 448	67.4	35.0	14.8	74.3	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-122
289	60H	検出	(68.6)	38.0	16.4	(70.1)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
290	60H	検出	72.8	34.0	16.3	66.6	土師質	A	無	ユビ押圧	
291	60H	検出	58.0	33.6	14.4	(60.6)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
292	60H	IV E 3e 検出	61.4	34.9	16.3	51.9	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
293	60H	V E 1a 検出	39.3	16.0	4.7	9.4	土師質	A		ユビ押圧	72- 44
294	60H	V E 4c 検出	35.3	16.6	5.6	7.5	土師質	A	無	ユビ押圧	72- 45
295	60H	2e 検出	(75.2)	(37.9)	(13.4)	(50.9)	土師質	A		ユビ押圧	
296	60H	2e 検出	41.4	16.3	5.6	13.9	須恵質	C	切り	ユビ押圧	
297	60H	V E 4c 検出	(54.5)	37.8	14.0	(65.2)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
298	60H	3t 検出	(51.2)			(22.0)	土師質	A		ユビ押圧	
299	60H	3e 検出	(34.1)	(37.2)	(13.8)	(18.6)	土師質	A		ユビ押圧	
300	60H	3e 検出	41.4	13.9	3.7	7.4	土師質	C	無	ユビ押圧	75-217
301	60H	4t 検出	52.6	36.4	15.3	62.8	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
302	60H	検出	66.7	33.2	12.8	(40.9)	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	
303	60H	検出	73.8	40.0	15.5	117.6	土師質	A	切り	ユビ押圧	71- 32
304	60H	表土	43.8	17.4	4.3	12.1	土師質	C	切り	ユビ押圧	
305	60H	表土	(40.5)	19.1	5.7	(13.4)	土師質	C	無	ユビ押圧	75-200
306	60H	表土	52.1	10.2	2.2	5.0	須恵質	C	切り	ユビ押圧	75-222
307	60H	表土	66.6	32.6	14.7	62.4	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	74-123
308	60H	表土	(45.9)			(18.3)	土師質	B		ユビ押圧	
309	60H	表土	66.7	35.8	15.1	73.7	土師質	C	ナデ	ユビ押圧	74-124
310	60H	表土	57.4	27.7	10.1	42.5	土師質	C	無	ユビ押圧	
311	60H	表土	(37.9)			( 9.9)	土師質	B		ユビ押圧	
312	60E	S X01 C群	63.6	34.1	14.8	57.0	土師質	A	無	ユビ押圧	74-155
313	60E	S X01 C群	64.5	33.7	13.4	66.7	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	73-104
314	60A1	III E 18k S D 03	56.5	29.3	8.4	48.9	土師質	A	ナデ	ユビ押圧	72- 52
315	60A2	IV E 3j S D 04	(36.5)	19.8	8.3	(13.1)	土師質	C		ユビ押圧	75-192
316	60B2	IV E 4m S E 01	56.8	22.3	4.4	27.9	須恵質	C	切り	ユビ押圧	75-182
317	60B2	IV E 4m S E 01	(48.7)	(23.2)	5.6	(16.3)	土師質	B	切り	ユビ押圧	
318	60F	S E 03	46.3	17.9	4.9	16.4	土師質	C		ユビ押圧	75-197



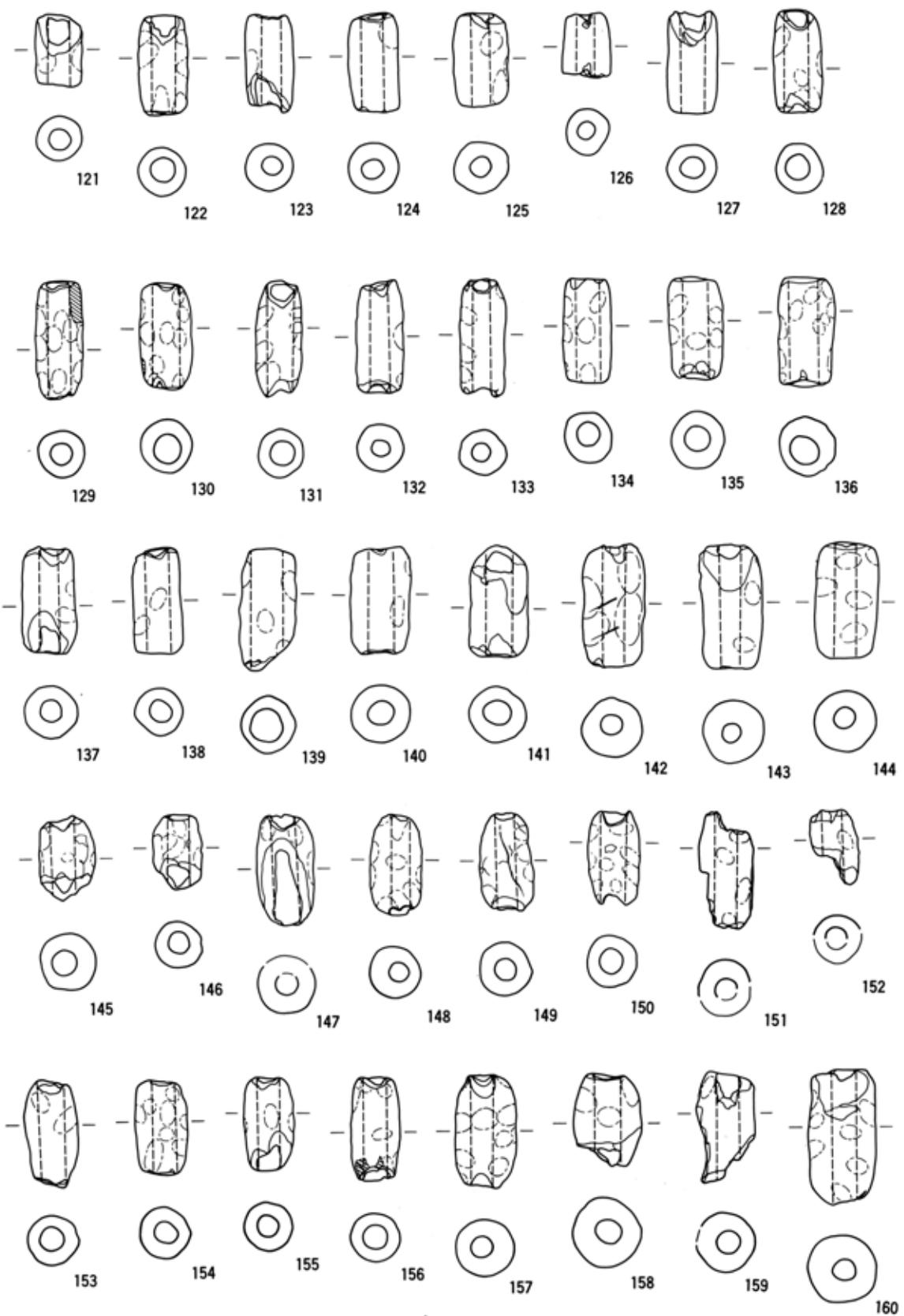
第71図 大測遺跡出土土鍾(1) (1/4)



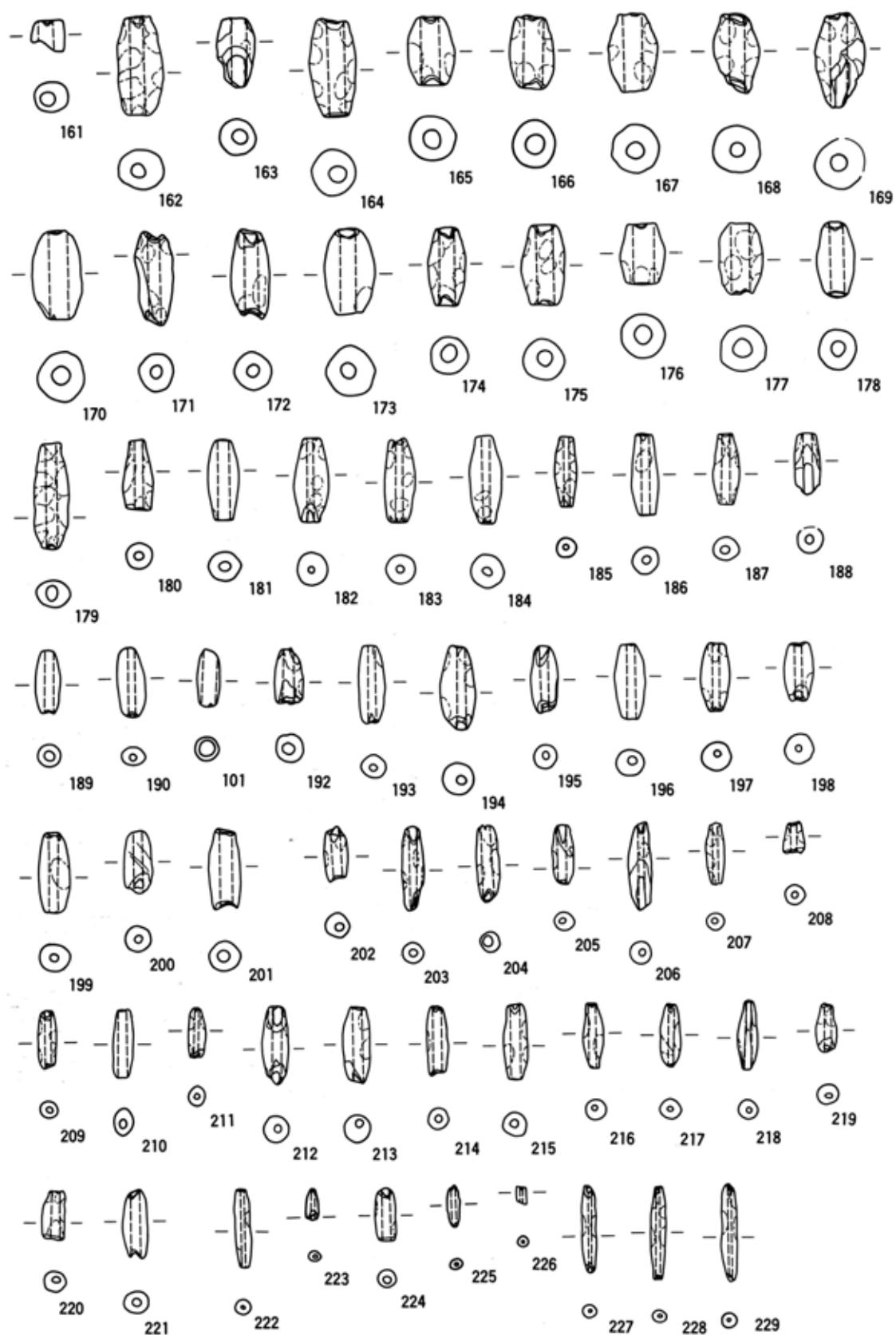
第72図 大測遺跡出土土錘(2) (1/4)



第73図 大洲遺跡出土土錘(3) (1/4)



第74図 大瀬遺跡出土土錘(4) (1/4)



第75図 大測遺跡出土土鍾(5)

(1 / 4)